

「下関の歴史と日本銀行 —明治から現代まで」

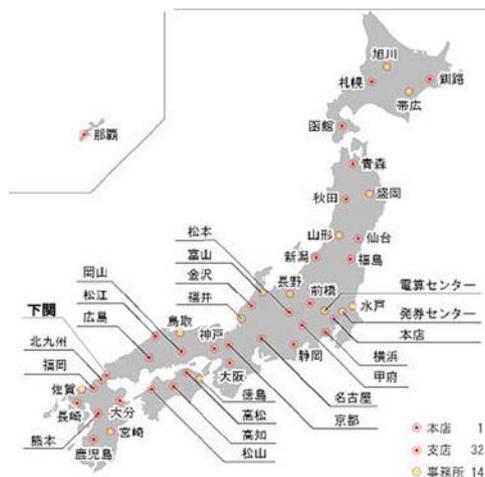
日本銀行下関支店長
岩下直行

1. 日本銀行と下関

日銀は、全国に32の支店を置いています。多くの都道府県に1店舗ずつありますが、日銀の支店が置かれていない県も少なくありません。複数の支店が置かれている都道府県は、北海道（札幌、釧路、函館）と福岡県（福岡、北九州）です。

日銀下関支店は、次のとおり、日銀の支店の中でもやや特殊な歴史的経緯を持つ支店です。下関は、日銀の支店がある街の中でも、日銀にとって特別な街だと言えるでしょう。

- ・下関は、大阪に次いで2番目に日銀の支店ができた街です。
- ・県庁所在地に日銀がなくて、それ以外の街に日銀があるのは、下関と松本だけです。
- ・一旦、日銀の支店がその街から転出した後で、再度設置された例は、下関しかありません。
- ・歴代日銀総裁の中で唯一お札の肖像となった高橋是清が日銀支店長を務めた街は、下関だけです。
- ・関門地域には、下関と北九州（小倉）の両方に日銀の支店があります。両店の間の直線距離は僅かに8.9kmです。日銀の店舗間の距離が日本で一番近いのは、この2店間です。



2. 下関における日銀の歴史

(1) 西部支店時代（明治26年〈1893年〉～31年〈1898年〉）

日本銀行は、明治15年10月10日に開業、同年12月15日には大阪支店を開設しました。西部支店は、大阪以西の金融が円滑に行われるように、大阪に次ぐ2番目の支店として設置されました。

西部支店は、当初、門司に置かれる計画だったのですが、当時の門司はまだ鉄道が開通したばかりで、市街地が形成されていなかったため、当分の間は、門司と同一経済圏を形成していた赤間関市（現下関市）に支店を置くことになりました。そこで、赤間関市西南部町52ノ1（現在の南部町19-7、明治安田生命下関ビルの敷地内）にあった第百十国立銀行（山口銀行の前身）の店舗を買い取り、改築を加えたうえで、明治26年（1893年）10月1日に西部支店を開設し、翌2日から営業を開始しました。初代支店長は高橋是清（後の第7代日銀総裁、第20代内閣総理大臣）、総員14名の小世帯でした。

◆この時期の下関の歴史

- 明治27年（1894年） 日清戦争始まる。
- 明治28年（1895年） 日清講和会議。



(2) 西部支店移転後の日銀不在時代（明治 31 年〈1898 年〉～昭和 22 年〈1947 年〉）

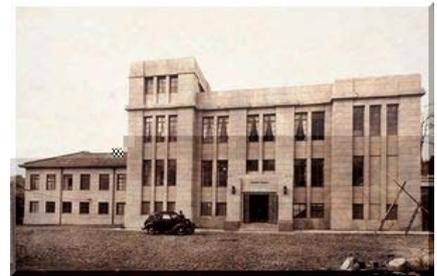
明治 31 年 10 月 30 日、西部支店は当初の計画に沿って、門司港に新築された店舗に移転しました。日銀は下関から転出し、下関には不在となりました。なお、移転した西部支店は、門司支店、門司事務所を経て、更に小倉に移転し、現在の北九州支店へと受け継がれています。

◆この時期の下関の歴史

- 明治 33 年（1900 年） 山陽鉄道が下関まで開通。
- 明治 35 年（1902 年） 赤間関市から下関市に市名変更。
- 明治 38 年（1905 年） 下関と韓国・釜山との間に関釜連絡船が就航。
- 昭和 17 年（1942 年） 関門鉄道トンネルが開通。下関駅は細江町から竹崎町に移転。
- 昭和 20 年（1945 年） 下関空襲により市街地が深刻な被害を受ける。

(3) 下関支店開設 旧店舗時代（昭和 22 年〈1947 年〉～48 年〈1973 年〉）

昭和 22 年 12 月 1 日、下関支店が、旧下関税務署の建物を引き継いで、現在地（下関市岬之町 7 の 1）に設置されました。建物は戦災にあった元下関税務署庁舎に増改築を施したものでした。支店開設の後、日銀山口事務所（日銀広島支店管下、昭和 21 年に山口県山口市に開設）の事務を、下関支店が引き継いでいます。なお、この際、門司支店は門司事務所に組織替えになっています。



◆この時期の下関の歴史

- 昭和 33 年（1958 年） 下関市と北九州市を結ぶ関門国道トンネルが開通。
- 昭和 45 年（1970 年） 下関と韓国・釜山を結ぶ関釜フェリーが就航。

(4) 仮店舗時代（昭和 48 年〈1973 年〉～50 年〈1975 年〉）

店舗老朽化のため、昭和 48 年 9 月に店舗を建替えることが決まりました。工事中の 1 年 5 か月は観音崎町の山口銀行別館（旧三井銀行下関支店、後に山口銀行本店、現在はやまぎん史料館）を仮店舗として借用し、営業を続けました。



◆この時期の下関の歴史

- 昭和 48 年（1973 年） 関門橋が開通。

(5) 新店舗時代（昭和 50 年〈1975 年〉～）

昭和 50 年 1 月に鉄筋コンクリート造りの現在の店舗が完成、今日に至っています。

◆この時期の下関の歴史

- 昭和 50 年（1975 年） 山陽新幹線が開通し、新下関駅が開業。



3. 3人の日銀馬関支店長

日銀西部支店の初代支店長を務めた高橋是清は、その自伝の中で、自分が「日銀馬関支店長に就任」したと書いています。正式名称は西部支店ですが、当時の所在地が赤間関（馬関）なので、馬関支店とも呼ばれたことが分かります。高橋是清は2年弱で東京に転勤となり、その2代後までの3人の日銀西部支店長が「日銀馬関支店長」でした。なお、戦後、下関に再度支店を構えた後の「日銀下関支店長」は30人います。

歴代日銀馬関支店長

	氏名	発令年月
初代	高橋 是清	明治26年10月
2代	浜田 市助	明治28年8月
3代	志立 鉄次郎	明治30年12月(明治31年10月に門司に移転)

歴代日銀下関支店長

1	岩瀬 雄治	<S22.12>	11	江部貞四郎	<S44.5>	21	中島 洋	<H1.11>
2	中尾満寿夫	<S24.7>	12	島本 禮一	<S46.11>	22	村上 堯	<H3.5>
3	岩田 良策	<S27.6>	13	今井 只彦	<S48.5>	23	武藤 英二	<H5.5>
4	古川 進	<S30.6>	14	戸田 善明	<S51.5>	24	寺尾 好正	<H7.2>
5	竹下 文雄	<S31.11>	15	常松 幹義	<S53.8>	25	秋山 勝貞	<H9.7>
6	吉田 雄三	<S34.9>	16	内田 清文	<S55.7>	26	高坂 進	<H10.9>
7	竹村 直己	<S36.3>	17	湯本 雅士	<S57.6>	27	武藤 清	<H13.10>
8	小松 康広	<S37.11>	18	森脇 邦剛	<S59.6>	28	宇平 直史	<H16.6>
9	木村 忠三	<S40.2>	19	熊田 泰彦	<S61.4>	29	米谷 達哉	<H18.7>
10	吉川 滋	<S41.3>	20	安居 和男	<S62.11>	30	岩下 直行	<H21.6>

4. 関門海峡を挟んだ日銀支店の移り変わり

日銀下関支店が他の日銀支店に見られない歴史的変遷を辿ってきた背景には、関門海峡を挟んだ下関と門司、北九州との特殊な関係があります。

下関は、明治、大正、昭和と、対岸にある門司、小倉と一体となって経済的な発展を遂げてきました。西部支店、門司支店、下関支店、北九州支店は、いわば関門地域における日銀の支店という位置付けの中で変遷をしてきました。他方、関門地域は、山口県、福岡県という別々の自治体、中国地方、九州地方という別々の地方に属するという特殊な経済圏です。現在、下関と北九州（小倉）という極めて近接した地域に日銀の支店が置かれているのは、こうした関門地域の特殊性を反映したものと言えるでしょう。

山口県と福岡県における日銀支店・事務所の変遷

	1893年～	1898年～	1917年～	1941年～	1946年～	1947年～	1963年～現在
山口					☆山口事務所	↓	
下関	★西部支店	↓				★下関支店	★下関支店
門司		★西部支店	★門司支店	★門司支店	★門司支店	☆門司事務所	↓
小倉							★北九州支店
福岡				★福岡支店	★福岡支店	★福岡支店	★福岡支店

以上